

高等学校 地理歴史科(地理 A) 学習指導案

指導者 具志堅 加奈

日時 平成 28 年 10 月 15 日 (土) 第 2 限 (10 : 35～11 : 25)
場所 第 1 社会科教室
学年・組 高等学校Ⅱ年地理 A 選択クラス (イ) 41 人 (男子 25 人, 女子 16 人)
単元 2 章 人間生活を取り巻く環境
2 節 人々の生活と気候 (教 p. 48～49, 54～55)

指導計画 (全 3 時間)

第一次 熱帯の気候と人々の生活 1 時間

第二次 温帯の気候と人々の生活 1 時間

第三次 気候区分でとらえる沖縄の姿～ケッペンの気候区分の利用～ 1 時間 (本時)

題目 地理 A におけるアクティブ・ラーニング型授業～沖縄の気候を題材に～

授業について

ケッペンの気候区分は、植生に着目した気候区分で、気候分野においては地理 A 並びに地理 B の教科書、中学社会でも掲載されている教材である。今回の研究大会においては、そのケッペンの気候区分を利用して沖縄県の気候を理解する授業を行う。同県は、東西約 1,000 km, 南北 400 km という広大な海域と 161 の島々で成り立っている。ケッペンの気候区分では、日本は Cfa (温暖湿潤気候) と位置づけられている。この気候区分に基づくと、一年中湿潤で、夏は高温で冬は寒冷となる。しかし、同県の気候は九州各県並びに本土とは異なる。例えば、雪が降らない、1月に桜が咲くというような特色である。そこで、今回の授業においては同じ日本国内でありながら、日本本土と異なる気候が分布する沖縄県の気候と同県における人々の営みを理解する授業を行う。次期学習指導要領においては、習得した知識や考え方を活用し、学習対象と深くかかわり、問題を発見・解決したり、自己の考え方を形成したりすることによって、生徒が主体的に深く学ぶことができる授業が求められる。今回の授業においては、グループで協力し、沖縄の気候区分を作成するという目標の元、生徒たちがこれまで学習してきた雨温図とハイサーグラフの読み取りの技能、雨温図の見方とつくり方を生かして、グループで協力して気候区分を作成できるようにしていきたい。

本時の指導目標

沖縄県の雨温図を基にハイサーグラフを作成し、気候の特徴を読み取り、説明できるようになる。

本時の評価規準

- ① 課題「ミニレポート 沖縄の気候区分の特徴を説明しよう」
- ② ルーブリック

評価	評価指標
3	気温、降水量の年間の変化量に基づき、気候区分を説明できている。
2	ハイサーグラフの類型に触れて、気候区分を説明できている。
1	気温、降水量の大小のみ記述している。

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
前時 導入 5分	発問：熱帯と温帯の気候が持つ特徴を整理する。	・ワークシートにまとめる。 (関心・意欲)
ハイサーグラフの作成 展開①20分	<p>・沖縄県内6か所（那覇市，宮古島市，石垣島市，南大東島，渡嘉敷島，与那国島）の気温と降水量を表した表とグラフシートを利用して，以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月平均気温と月降水量を読み取る。 2. 縦軸を平均気温，横軸を降水量とし，両方の値の交点に点を打つ。これを12か月分行う。 3. 1月～12月の点を結んで閉曲線とする。 	<p>・配布したデータを読み取ることができる。(知識・技能)</p> <p>・6名で分担して作業をすることができる。(態度)</p> <p>・行動観察</p>
気候区分の判定 展開②20分	<p>・グループ6名で話し合う。作成した資料，教科書，資料集を使用して，ワークシートをまとめる。その際は，以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候区分を自分で予想する。 2. 予想に基づいて，根拠をまとめる。 3. 各自ミニレポートにまとめる。 	<p>・気候区分を予測することができる。(思考・判断)</p> <p>・資料を用いて自分の言葉でレポートを作成することができる。(表現)</p> <p>・行動観察</p>
授業アンケート まとめ	<p>・3つの評価項目に基づき，自己評価を5段階で出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分で予想を立てられたか。 2. グループで分担してハイサーグラフを作成できたか。 3. 根拠を示して，ワークシートをまとめられたか。 	<p>・本時の学習を振り返る。</p> <p>・それぞれの予測と根拠に基づいてまとめることができたかを特に重視する。</p>
備考		